

看護師、医師、あるいは病院の事務職の皆さんは、学校教育ないし大学教育で、そうした体系的な教育を受けたでしょうか。あるいは職場で、安全に関わる教育を受けているでしょうか。

日本では、エネルギー関連に較べて、医療系での核放射線の安全に関する教育は不完全であったり、不十分な場合が少なくないようです。医学や看護など養成課程での体系的な教育のほかに、医療現場での追加教育も、医療技術の進歩に伴い必要です。

1-2 医療従事者たちの疑問と心配

病院内には、強い放射線を発生させる装置があり、患者さんへ照射したり、ときには患者さんへ放射性物質を投与することがあります。そうした患者さんと接する医師や看護師への健康に影響しないような注意が払われています。

放射線科で専門に働く人たちは教育を受けていますが、他科の人たちはその実態を知らないばかりか、専門的な知識は持っていないのが普通です。ですから、医療従事者が疑問や不安を持つのは当然です。また、患者さんから、放射線科での診療について質問されたり、不安をぶつけられたりしているのではないですか。以下は、医療従事者の皆さんからの疑問や、心配事です。

- 1 リニアック室の前の廊下を毎日のように歩くけれど、被曝が心配だわ。
- 2 MRI って核磁気共鳴の装置のようだけど、核って聞くと怖いわね。
- 3 核医学で放射性の薬剤を投与された患者さんが、病院内を歩いているけれど、大丈夫なのかしら。

- 4 私たちの病院には、今度、PETが導入されて、放射性薬剤を製造しているの。よくわからないけど、安全なのかしら。
- 5 レントゲン(X線)検査を受けた患者さんが妊娠していて、その後、お腹の赤ちゃんに影響はないかと尋ねられたけれど、返事に困ったわ。
- 6 広島では、原爆の後、多数の奇形児が生まれたらしいわよ。
- 7 CT検査を受けた子どものお母さんが、将来の白血病の発生を心配していたけれど、科学的な説明ができませんでした。
- 8 入院中の患者さんから、「何回も胸部レントゲン写真を撮影したけど、何回まで大丈夫なの」とかと、質問されたけど、返事ができませんでした。
- 9 甲状腺がんの治療に、多量の放射性ヨウ素を患者さんに投与していると聞いたけど、担当の看護師さんたちは安全なのかしら。
- 10 看護師の私たちは、ルクセルバッジを装着させられているけれど、何の意味があるのかしら。
- 11 IVR手術の際に鉛エプロンを着用したが、放射線防護の効果はどうなのか？
- 12 IVRの手術で、外科のS先生の手先が放射線熱傷になったらしいが、大丈夫か？
- 13 リニアックの過剰照射が原因で死亡した患者さんの遺族から、A病院が医療ミスを訴えられているそうだが。
- 14 原子力発電所内で発生した事故で負傷した人が搬送されたそうだけど、救命部の職員の被曝は心配ないのかしら？

これらの心配や疑問は、一般の人たちや、医療従事者からときどき耳にすることです。あなたはどうですか。周囲の同僚から、こうした話を聴いていませんか。本書で、これらの疑問に答えま



す。しかし、いくつかは心の問題もあり難しい疑問もあります。また、場合によっては、職場での事故があるかもしれませんし、環境や安全管理の仕方の改善が求められるかもしれません。さらにいくつかの問題は、医療現場における放射線防護の研究対象ともなっています。

1-3 レントゲンの発見からはじまる放射線防護学の研究

読者の大多数の皆さんは胸部レントゲン(X線)の撮影を撮られたことがあると思います。特に医療従事者は、職場の定期健康診断で、毎年必ずこの検査を受けています。また、バリウムって白い変な味のヨーグルトみたいなものを飲んで胃の透視の撮影をされることもあります。私も職場での定期検診では、毎年、これらの検査でレントゲン(X線)撮影を受けています。

現代の医療に放射線は本当に不可欠なものです。この放射線の利用が始まったのは、100年以上も前です。X線は、ドイツの物理